



現場から（最近のニュースから）

比較による価値



朝日新聞に連載されている鷲田清一さんの「折々のことば」から、7月6日の記事を紹介します。

人間は……諸対象について判断するのに、その内在的な価値からではなく、比較によって行なうのが常である。（デイヴィッド・ヒューム）



一方の手を温め、片方の手を冷やしておく、同じ水が冷たくも温かくも感じられるように、激痛の後に続く軽い痛みは快くさえ感じられ、軽い痛みの後に続く激痛は「二倍つらく不快なもの」になると、18世紀の哲学者は言う。人の判断はそうした力学に支配されていると。『人間本性論』第2巻「情念について」（石川徹ほか訳）から。

私たちが判断するときに基準にしているのは、自分自身が体験したこと、または、自分が見て学んだことです。その基準で目の前のことを判断しています。ニュースで聞こえて来ることばも、いままでのこととの比較です。今年の夏も暑くなりそうだというとき、例年の気温、または、昨年の気温などと比較して、それよりも高いと言われます。梅雨入りや梅雨明けも、例年より〇〇日遅いとか、早いと言われます。スポーツでも、いままでなかった記録が出た場合、大きなニュースになります。まったく新しいことだと言われるのも、いままでなかったから「新しい」と表現されるので、いままでのこととの比較です。お隣より自分に少しでも自分の良いと思うことが多ければ、それが良いと思ひ、少しでも自分が良いと思うことが少ないか、悪いと思うことが多いと、なんとかしなければならぬと思ひます。それも、すべて「比較した」基準によることでしかありません。昨日より今日がちょっとでも良いようにと願えば成長していくと言われることもありますが、それも自分の中での比較です。

そのように社会全体が、相対的な基準で比較して判断していることに気づいている人はどれくらいおられるでしょうか。絶対的なことがないので、それぞれの価値を尊重しようという風潮が出て来ていますが、それぞれの価値も、実は、このような相対的な基準で比較したことでしかありません。他とは違うけれど、それが良いのだということは、他と自分を比べるから出て来る考えです。比較するのではなく、絶対的なことで自分を見たことはあるでしょうか。その絶対的な基準で自分を見ることについて、いっしょに考えてみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあり、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださいましたことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください